毎月四回發行

いらつめ

いらつめ第卅五號目次（明治二十二年十二月十五日）

●小説……心づくし第三回下……毛布野女史
●家政……裁縫獨學び（初等第五）……木下貞子
一身を裁つ法＝三つ身を裁つ法＝四つ身を裁つ法
○衛生料理法（第七）……岩間芳松
雜菜料理＝蓮根人參油揚げ煮＝大根人參燒き豆腐紿汁煮＝芋がら切り干し大根油揚げ煮＝人參里芋油揚煮蓮根牛房むし麩の油いり
○衛生三食見立て第二日分及び三日分
●文藝美術……明治廿二年の日本文學世界
○五社百詠（其一）……俊成卿
●雜纂……女生徒の肩掛漫評＝序跋題辭の盛衰＝女用文章獨學（其三）＝普通語「ある」の意味＝色の取り合せ方（其三）＝米澤讃山侯女中示し書き＝小倉式紙及び其奇談＝歲暮新年及びクリスマス贈り物見立て
●寄書……名刺用法……槐月陰史＝日本白粉化粧後の注意……西尾さこん＝花及び色の投票
●通信問答……梟の足＝咽喉カタルを防ぐ事＝最忠國及び俱樂部の意味＝最良朱肉製法＝千蔭筆百人一首＝ニキビを除く事＝手の肉を柔にする法＝外數種
●答書……しツかりした手跡の女用文習字手本＝牛馬肉簡易鑑別法＝屠肉死肉簡易鑑別法
●餘興……附錄入り

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵稅共金三錢、十二部金二十九錢郵稅共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵稅共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵稅共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵稅共金一圓二十四錢●別製一部金三錢五厘郵稅共金四錢、二十部金六十五錢郵稅共七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵稅共金一圓九十錢●前別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事●府內に限り無郵稅●每月四回（八日十五日二十二日三十日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局さある處に（神田郵便局）と記し、受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り增しなれば切げ無い事●見本は五厘切手で並製三錢別製四錢領收の上差上げます●廣告料一行金八錢、割引無し●第廿八號から本社から賣り出す證として雜誌の表紙に成美社の捺印を加へましたから是を目標として御求めを願ひます。捺印の無い雜誌に就いては本社で一切責に任じません。捺印の無いのを御求に爲っても代金御支拂に及びません。

從第二十八號至第三十七號十部版權所有

新案別製本出版の社告　度々の御注文により第二十六號からいらつめ別製本を作り、永く保存に堪へるやうにしました。（一）別製本は美麗堅牢な紙に本文を印刷する事（二）別製は容易に再版をせぬ事ゆゑ御注文は至急で無ければ賣れ切れになります（三）別製並製共記事は相同じです（四）定價は前にあります（五）第二十六號第二十七號及び第二十八號の別製本は悉皆賣れ切れになりました。

いらつめ合本の社告　西洋諸國の婦人雜誌では大抵一仙か一ペンニの月三回以上發兌でそれを一ケ月の後になり、一ヶ月分だけ合本し、表紙を付けて賣り出します。いらつめでも是に倣ひ、來る十二月が過ぐれば更に十二月分だけを合本し、美麗な表紙を付けて賣り出します。定價金十錢五厘郵稅共金十二錢、紙數八十四ページ、總目錄付き。府內無郵稅。但し本十一月に限り十月の第廿八號から十一月最後の三十三號に至るまで總六册を一部に合本して賣ります是は續稿になッた記事が彼是ある爲めです是は定價十五錢五厘郵稅共十七錢五厘です。

注意

本號には俊成卿の五社百詠●新年歳暮くりすます贈答品見立て●牛馬肉鑑別法●少女肩掛批評が出て居ます。

明治二十二年十二月十四日印刷
明治二十二年十二月十五日出版

發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎
印刷人　同市同區同町同番地成美社方寄留　佐野忠吉

發行所　東京市神田區平永町九番地　成美社

小説

第三回下

毛布野女史

三人でさへ姦しき女同士が、幾名か一間に集へる騷々しさ。手に編物をしながらも、口には世間のうはさより、芝居の評判唐茄の、價の高下は言ふまでもなく、己が頭の蠅をば逐はずに、人の頭の風恰好、着物の着振り詞遣ひ、細評殘る所なく、漸く話絶んとすれば、又もや別に趣向を換て、朝から晩まで喋舌徹し、斯うも續けば續くものかと、聞くもの舌を卷くことハ、世間に例尠なからねど、中にも宅間の仕事場には、お甲お乙を始めとして娘の口揃ひ、

「昨夜妾は洗湯からの戻りにみィちやんに逢つたの。　どうも〱それは〱立派な形としてさ。　だもんだから、いやアに濟し込んで妾が詞をかけたのを鼻で挨拶をして往かうとするから癪に障ッて堪らないぢやないかね。　だのらさう云つて遣つたんだ。　みィちやんなんとは金のなる木があるんだから羨しいつて。　さうしたら眞赤になつてぷん〱怒つて往つちまつた。　可笑かつたわ」

「あゝらまア、可憐さうに。お甲さんも餘ッ程人が惡いよ。」

「なァに宜いぢやないかね全体みィちやんが餘んまり宜い氣になつて高慢な顔をして居るから妾は寧そ宜い氣味に思ふよ。」

「金のなる木で思ひ出したが、此處の宅と今田屋さんとは親類でゝもあるのか知らん、お丙さんは知らないか。」

「妾も知らないけれども人から聞いたんだがね、高い聲では言はれないが、あの才今田屋の旦那はお琴さんに大ありだとさ。　なにッて否だ、眞正に察しの惡りい人、さうだもんだから斯う世話をするんだと。　又さうでもないものが何んで斯う屆く譯はなからうぢやないかねエ、あゝ妾は別嬪さんにならなりたいわ。」

「妾もなりたいわ。」

「妾も。」

と羨む如く嘲ける如く大きな聲では言はれぬと言ひつゝ自然に高調子、信種お琴が小蔭に在りて聞くとは更らに知らざりけり。

素より正直一片に凝り固まりし信種ゆゑ、口端なき女子供があることないこと喋舌たる宛推量の噂さとして聞き棄てかねて思ふやう、彼れと我れとは由緣りもなきもの然かる

に斯まで深切と盡すは理由のあることかと兼々疑ひ居たりしが、偖は計略ありてのことか。兵書に所謂る先んずれば、人を制すといふことあり。彼に果して野心あらば、早晩彼れより言出でん。其場に迫りて兎角いふとも、罠を脱るゝこと難し。寧ろ我より先かけて、其計略の裏をかゝんか。とは云へ彼れの心も知らず、虚實も未だ定かならぬを、迂濶に我より手を出すは敵を見ずして刀を拔く卑怯未練の擧動に似たり。然ば噂も萬更らに痕形のなきことにもあらぬか。殊に彼れには野心なくとも、既に世人の口の端にかゝれる上は家名の瑕瑾、祖先の手前申譯なし。偖如何して宜からんかと只管胸をは痛めけり。

お琴も同じく此噂を聞きては怎でか駭かざらん。泣もし狂ひもすつべき所を、斯ては倚も父上に心勞をかけ參らせん辛抱するは此處なりと、素知らぬ顔にもてなせども、流石は處女のくよ〳〵と思ひ出してはなか〳〵に胸安からぬ今の噂さ。男撰をするにはあらねど、年齡は三十も相違せる親にも均しき其人に添ねはならぬことなるか。父の仰とあるからは背れはせじ背きはせねども、妾が眞の心の内には聊か冀望のなきにあらぬを、それさへ言はれぬ身の不幸、只これのみか金に目がくれ、年齡にも構はす身を任せしと人に云はれん口惜しさ。心ばかりは清くとも、酌む人々の心の内に濁りあるをば如何にせん。其濁江の波のまに〳〵楫を絶たる捨小舟、いつくをよるべ渚なるよしやあしやを漕ぎ分けん。若し母上が世にましまさば、何とか仕やうのありなんものを宿世いかなる不幸ものに生れては來しことなるか。幼き時に母上に別れし後は父上の御手一つに人と爲り、幾そ許その御難義と貧しき中にかけ奉りしか。元を思へは苟初にも我儘ことを言はるべき。仕誼にはあらず勿躰ない。もう嘆くまじ〳〵。賤の小手卷幾千度、繰り返すとも詮なきこと。殊には未だ父上の思召をも知らずして、取越苦勞をすることか。あゝ我ながら愚かなりきと思ひかへして心を諫め、やをら臥床に入らんとして、帶をとく〳〵思ひ出せば晝の間にお丁より受取置たる一封なりしが圖らず物を案じ過し礑と忘れて居たりしか鈍ましかりきと何氣なく袂を探ぐりて取り出し、何か仔細のあることかと讀み下したる文の中には开も何事の記しあるや、讀んで半に至らざるに顏赤らめて持たる封書を投け出せしまゝ夜着引き被りて枕に就きたる其後は作者も未だ知ること能はす

家政

裁縫獨學び初等第五

木下貞子

一つ身を裁つ法

一つ身を裁つ布は通常七尺五寸から一尺位までゞ、その法丈一尺七寸五分、袖丈一尺、袖巾五寸、衽巾二寸五分、衿巾一寸五分、衿肩一寸に裁ち、袖付き四寸五分、褄下五寸、衽下二寸五分、身幅いつぱい衿巾七分ぐらゐの出來です。

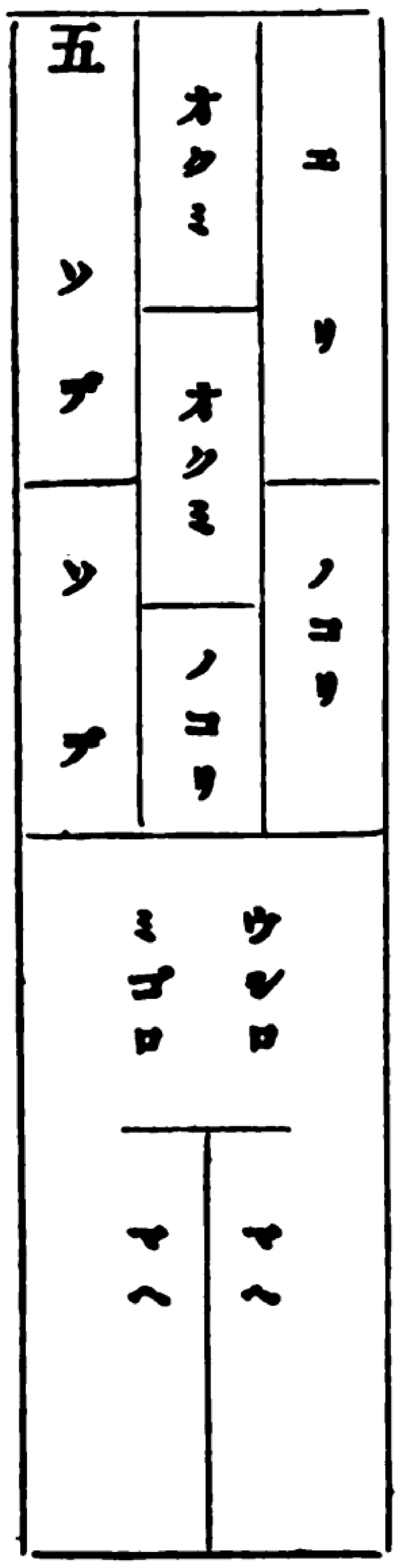
三つ身と裁つ法

三つ身を裁つ布は通常一丈二尺から一丈五尺までぐらゐです。常巾一丈二尺で作るには丈二尺四寸袖丈一尺二寸に裁ち、衿丈四尺、衿巾一寸六分から八分迄、衿肩は一寸七分、衽巾三寸、但し衿衽の取り方は衽は脊から落とし、衿は袖の端から落とすのです。衽下三寸、袖巾六寸五分、身の八つ口二寸五分、前巾後巾とも一杯袖口明き五寸、袖付き四寸五分から五寸迄、裙下は七寸の出來です。

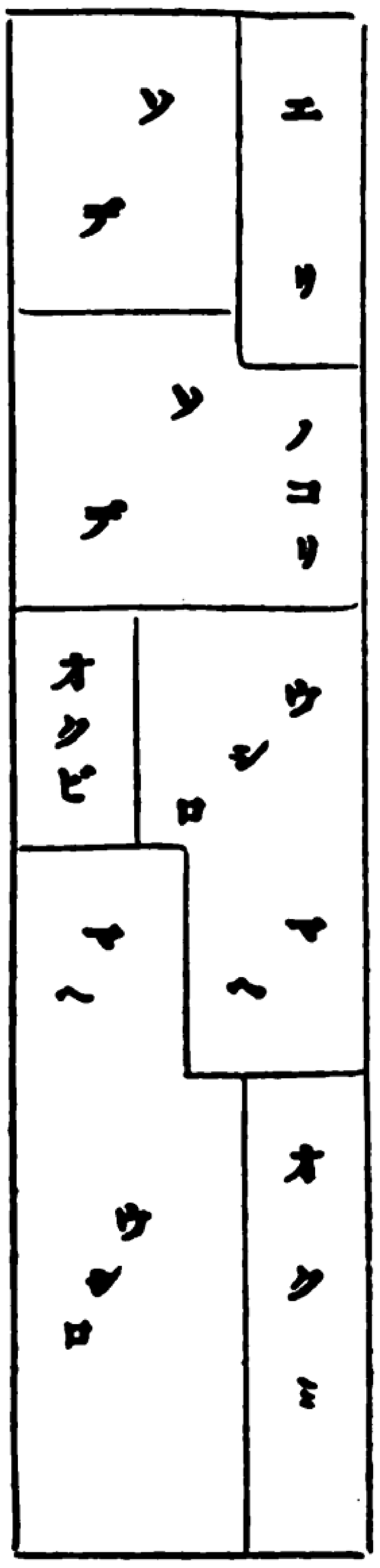
四つ身と裁つ法

之を裁つ布は通例一丈七尺から二丈までぐらゐです。今一丈九尺で四つ身を裁縫するには、袖丈を一尺六寸五分に裁ち、丈三尺一寸に裁つのです。衿は脊の端巾から取ります

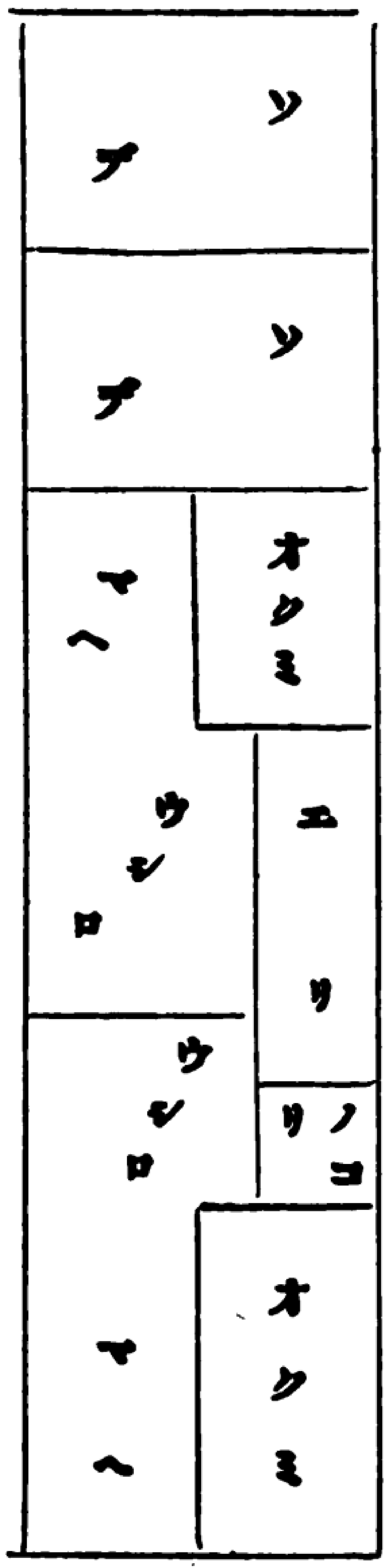
衽は前巾身頃の邊で空縫ひをします。



右袖丈一袖巾五寸衽巾二寸五分衿巾一寸五分衽は縫だち衿丈三尺衿肩一寸



右は一丈二尺で三つ身を裁つ圖。袖丈一尺二寸衿巾一寸五分衿丈四尺丈二尺四寸衿肩一寸七分衽巾三寸ぐらゐ



右が四つ身の裁ち方。袖丈一尺六寸衽巾三寸八分衿肩一寸八九分丈三尺五寸衿丈五尺一寸二分衿巾二寸。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

改良實用衛生料理法（其七）

雜菜料理の部　元鹿鳴館料理方岩間芳松

三　蓮根人参油揚げ煮。　蓮人参とも皮を去り、よく湯煮して爪にとり、鍋に酒を入れて沸立たせて水すこし入れ、砂糖少し加へ、蓮根人参及び油揚げを入れ、鰹節と胡椒を加へ、よく煮て醤油で油と付けるのです。

四　大根、人参、焼き豆腐、蛤汁煮。　大根と人参とを薄く切り、生で煮出しを入れて煮、それから焼き豆腐を入れまた蛤を入れ、味をつけて皿に盛り、下し生姜を入れます。

五　芋がら、切り干し大根、油揚げ煮。　芋がらを水に漬け、水と切り、湯煮にし、干し大根と油揚げもろとも鍋に入れ、酒に水を少し割り、砂糖を加へ、よく煮、鰹節を入れ味を見て胡椒をふり、用ゐるのです。

六　人参里芋油あげ煮。　芋の皮を去り、切ッて湯出、鍋に酒を入れ、氣をぬき、水を入れ、砂糖少し入れ、三品に鰹節を入れ、煮て味をつけ、生姜の絞り汁をかけて用ゐるのです。が、右は少し汁の有る程に煮るのを度とします。

七　蓮根牛房蒸し鉄の油煎り。　蓮牛房二種を切り、よく湯出、鍋に油を入れ、烟の立つを見て二品（はす、ごばう）を入れかきまぜ、蒸し鉄を入れ、酒と砂糖と水とを少し加へ、よく煮、鰹ぶしを入れ、胡椒をふり、用ゐるのです。

衛生三食見立て　一名保健食料

岩間芳松

○第二日分

朝食。　皿…半熟玉子二つ◎珈琲と牛乳　各五勺宛）◎バタ付き焼きパン（半斤）

晝食。　皿…すき焼き牛肉（三十匁）付け合はせ…さや豆隠元豆の内の一品のバタ煎り◎バタ付きパン（半斤）

夕食。　皿…蒸しやき鶏肉（三十匁）付け合はせ…塩煮の馬鈴薯（二十匁）

○第三日分

朝食。　椀…玉子（一つ）豆腐小松菜（合五匁）みじん、汁仕立て◎飯（一合五夕）

晝食。　皿…鯉又は鯰のすっぽん煮（二十匁）付け合はせ牛房慈姑◎椀…牛片。芹、三葉の内の一つの青味、口柚◎飯（一合二夕）

夕食。　皿…骨抜き鰌の玉子引き（鰌二十匁、玉子一つ）◎猪口…ゆばの甘煮（十五匁）◎飯（一合五夕）

文藝美術

明治廿二年度の日本文學世界

明治二十二年も今數日を以て終る事となりました。來年度の文學世界は何うなるものか、その豫想は出來ぬもの丶、既往の一年中の經過について跡を追へば思ひ半ばに過ぐる事も有ります。

明治廿二年度の文學世界を細評したなら種々になる事でしやうが、之を概言すれば明らかに前半期と後半期との間に於て相殊なる文章が區別を見せて、そして其文學の一般の理想は殆ど昨年の後半期と同じです。

明治二十一年の後半期から現れた一文体は所謂美妙齋主人の言文一致体で、之につゞいて其体の最も隆盛を極めたのは明治廿二年即ち今年の前半期の、しかも初頭でした。併しながら社會上に於ける國粹保存、で無ければ保守の説は終に喙を文學にも容て其浪の及ぶところ、現れては紅葉山人の色懺悔となりました。之について前の日言文一致体が流行した時と同じ有り樣、學ぶ者の勢は終にこの後半期に至ッて殆んど極度に達しました。

で、前に美妙齋主人の言文一致体の流行に協力の實の有ッたのは二葉亭氏、嵯峨の屋氏でした。後の紅葉山人の西鶴体の流行に合同の力をくはへたのは饗庭篁邨氏、露伴氏でした。外に森鷗外氏はむしろ言文一致体のために腕を添へました。須藤南翠氏と森田思軒氏と春のや主人とは別に一方に一派の色を示して居ました。

要するに、二十二年度の文學世界は言文一致に代はッて雅俗折衷体の出た一時期でした。それ故にわれ〳〵は文章の區別が有ッたと言ひました。

ひるがへッて文學の理想と問へば如何。果たして喜んでいゝ物でしやうか。文は是だけに新体創造の實が有ッて其わりに思想の新らしい實は明らかに見えもしません。談林風を更に移植し、元祿語をふたゝび活きかへらせるのは理想の如何と度る尺度には爲りません。其外について之を問へば果たしてどれ程の哲學論があらはれましたか。

わづかに珍らしく思はれるのは森鷗外氏と女學雜誌記者との「美」についての爭論、及び嵯峨のや氏の宇宙主義ぐらゐな物です。

昨年二葉亭氏の浮雲が出た時の理想とこの二十二年度の理想とはそのやうな相違が有りましやうか。われ〳〵はむし

ろ好事の趣向をみとめます、圓滿具足した物をば認め得られません。
　ことに明治二十二年度に於て最も取るに足らなかッたのは批評の有り樣でした。　昨、一昨兩年わたりの批評も思へばまだ〳〵完全に近かッたです。　昨、一昨兩年わたりの批評は素より肥えぬ眼を以ての批評、その主意は可否する迄でも有りませんが、しかし是等は頗る評者の眞意を盡くして、眞面目の物でした。　この勢ひで進んだらば隨分望みもある事です。　が、終に一變しました。　何の批評に限らず、文學本部に關する著述へ對する批評は一切眞面目でなく爲りました。　評者は口に毒を味はッて居てそれを蜜だと言ひふらし或は私心の餘われと異主義な物では可否に關せず貶し果たして顧みず、而も一般に語句に滑稽をまじへて所謂著者を冷かすやうな、これが普通の有りさまとなりました。　唯その中柵草紙のやうなもの丶出現は洵に暗闇の光りです。
　二十二年の文學世界の略評は大略これです。　委細は他日また折りを得て言ひましやう。　ことに二十二年度の文學は頗る美術と關係する處が有りました。

五社百詠（其一）

俊成卿

　五社は伊勢、加茂、春日、住吉、日吉で、その百詠とは俊成卿が詠進した和歌百首といふ事です。　詠進した時は文治六年。あまり世にも傳はらぬもの故これから少しづ丶出します。　中には風雅集や金葉集、その他諸集に出たのも有りますが、その外も中々秀逸な作です……いらつめ記者

○立春

いつしかと霞の衣たちかけて、みも裾川もこほりとけ丶り。
つら丶ゐし加茂の川上うちとけてせゞの岩波春〇〇〇（不明）や。
ふる鄕のまたふる年にはる立てば春日の山ぞまづ霞みける。
住の江の浪よりはるの立ちくらむ、松吹くかせも新るなり。
春はまづにほの海をやわたるらむ霞をよする志賀の浦なみ。

○子日

君を祝ふ子の日も許多過ぎにけり、哀れと思へ春日野の松。
君が世を野邊に出で丶ぞ祈るなる、初子の松の末を遙に。
春日野にれふる子の日の松は皆千世をうへて神ぞ引くらむ。
子の日には野邊ならねども住吉の松の陰にて祈るばかりぞ。
小浪や志賀の濱松ふりにけり誰が世に引ける子日なるらむ。

此小浪の歌は新古今集にも出て居ました。

○霞

霞こそたちこめたると鈴鹿山はるになるとはいかに云らむ。

立ちかへり昔の春のこひしきは霞をわけし加茂のあけぼの。

葛城やつぐりさしける岩橋も春のかすみは立ちわたりける。

明石がた絵島をかけて見渡せば、霞のうへも沖つしらなみ。

浅みどり四方の山邊に打ちなびく霞や春の姿なるらむ。

此明石がたの歌は續古今集にも出て居ました。

○鶯

谷を出て心たかくもうつるなる神道の山のうぐひすのこゑ。

鶯のねはかはらねど神山にはるを告ぐるは嬉しかりける。

年とへて哀とぞ聞く鶯のやどをもわかず春やつぐらむ。

さらねども浪花の春はあやしきを我つげ顔に鶯のなく。

聞こゆる春のつかひや行きやらぬ音羽の山の鶯のこゑ。

○若菜

けふとてや磯菜つむらむいせ島やいちしの浦のあまの乙女子。

磯のめがかはたの原につむ芹も誰がために袖ぬらすらむ。

若菜には數ならねども春の野に多くも年をつみてける哉。

いざやこゝ若菜つみてん、根芹生ふる浅澤小野は里遠く共。

あやなくもつみにきにける若菜哉、澤の根芹は袖ぬらし鳧。

右いざやの歌は風雅集にも出て居ました。

○殘雪

同じくば花のさく迄待ちつけむ、吉野の山のみねの白雪。

白妙のたむけの夕にまがふ哉、片岡山の雪のむらぎえ。

吉野山ふもとは霞棚引けどまた雪ふかしゆきのかけ道。

松陰にひさしくきえぬ白ゆきはこぞの記念に神や殘せる。

神山や杉のしげみのこぞの雪きえぬしるしを殘す也けり。

○梅

一木だに匂ひは遠しもろこしの梅咲くみねを思ひこそやれ。

色につき、匂ひにめづる心とも梅が香よりや移りそめけん。

宿の中に軒端のうめの香をめで丶眞木の板戸をさゝぬ頃哉。

難波津はむかしも梅の咲きければ海人の笘屋も風かほる也。

契りあれや、花の中にも梅の花、か丶る匂ひに匂ひ初めけん。

右色につきの歌は玉葉集にも出て居ました

○懸賞文藝新題

○第八回題（唱歌浄瑠璃及び文章に限る）
右　歳暮。　十二月十五日〆切

○第九回題（和歌唱歌詩浄瑠璃及び文章に限る）
右　かるた遊び。　十二月廿五日〆切

○第十回題（何でもよし）
右　美人雪夜に佇む。　一月十日〆切

○第十一回題（何でもよし）
右　難破船の圖題　一月二十日〆切

○第十二回題（何でもよし）
右　處女の愛情　二月十日〆切

右文藝應募者心得

第一　題を種にして成るべく趣向を立てるのを尙ぶ事○第二　唱歌浄瑠璃及び文章ハ各一千五百字以内の事○第三　一人で二種類の作を投せらるる人ハ二種類別々の紙に書く事○第四　原稿には宿所姓名明記の事○第五　原稿は半紙に限る事○第六　第二第三第四及び第五に背くものは沒書。　賞品は一等賞淸親良信二氏の内御好みの畵家の手に成つた畵帖だけの大さの**肉筆着色絹**地畵一面○二等いらつめ十二部○三等三部。

雜纂

女生徒の肩掛け漫評　か。た。

にくまれ口のやうでそが、概して言へば此頃の女生徒諸君の肩掛けは一般に氣の利かぬ掛け方です。或は志し學問にあッて無益の粧飾には走らぬためであらうと辨護を試みた人も有りました。それならばまた不贊成です。第一に「無益なかざり」といふ、この無益の字の意味が分かりません。吾々は女性は飽くまでも女性の美をあらはされるの望みます。學問にふけらるる事、もとより結構です。之がために美を掩ふのは不心得としか思はれません。中には美貌に於ては望みのないと言ふ處から故さらに姿をつくろはずに居る人も有りましやう。が、それも不心得です。元より天賦の顔付きや骨格はいたし方無いものゝ、しかし粧飾のために起る品位といふものは明らかに本人の志しの程をあらはすものです。

言はずとも知れた婦人ハ人界の花、その美といふ一點に至つては男子の遙に及べぬ物です。小說家や詩人が形容して雄壯を美とし、滑稽を美とする、この美ハ明らかに所謂眞の美妙と殊なッて居て、つまり雄壯や滑稽を美とするのハ其雄

壯及び滑稽の極むしろ精神に非常の快樂を覺える、その効しが眞の美に近いためです。 それ故に男子が三軍に臨んで更に動じぬのは見た處如何にも雄壯で即ち美です。 しかし婦人がれのづから洩らす天賦の眞の美とは元より違ッたものです。

羨ましいのは女性の境界、美の一點に於ては迚も人界外にゆづる處を持ちません。 その美、それを埋沒して思はぬのは如何にも嘆かはしい事です。 果たして實際その人に埋沒して惜しまぬ心が有るためでしやうか。

決して左樣では有りません。 人間の通情として人にわが美を示したいものです。 有れば有るだけの美、無ければ無いだけの美を人に洩らして人の稱贊を引きたいのは是も亦自然に備はッた心です。 その心が無いものは決してこの世の中の人間に無くは無いと決めて見れば、女生徒諸君の中に故さらに奇異な風をよそはふ子細即ち明らかになります。

女性がわが身の美を示す、その弊が一轉すれば浮氣となり不德となります。 其中點に止まれば完美完全の美を爲して居る事です。 之がために世界も照り、之がために男子の身もかをります。

たゞ其中點を得ぬのを不心得として擯斥して片隅にさへ押しつけて置いたならば、更に他の中庸と得た、天賦の賜物を空しくせぬ、尤も滿足な境界を作るのは女性の方の最もつとむべき事、否、むしろ務めて誇るべき事です。

昔の敎へに婦人は身じまひをよくしろとの言葉が有りましたが、たとひ敎育の基礎は今日のとちがッて居た世の說にしろ、この言葉は最も値ひの有るものです。

思ふに女性の諸君、狹く言ッて女生徒諸君の中にあたら天眞の美を損じて惜しまぬものは有りますまい。 實に斷言しても宜しいです、決して有りません。 まだよく女性に通じぬ男子は之を以て女性一派の厭世心に歸しますが、吾々はまだ其說に服せません。 流行を追ふ事が既にこれら女生徒諸君の間に無い事ならいざ知らず、流行と追ふ事が全く存在するのを見れば吾々はどうしても吾々の說の正確と認めます。 一生婚嫁せずに暮らさうといふミスも西洋には澤山有りますが、流行は必らず是等をも經て居る事は其證據とするに足る事實ではありませんか。

既に左樣と定めれば今日女生徒諸君が奇怪な粧飾に身をやつされるのは望んでする事では無く、概して心が付かれぬた

めでしやう。　それならば一日も早くその氣の付かれぬ處から起つた失策を避けられて然るべき事でしやう。
昨年にかはらず肩かけは流行します。が、肩掛けの掛け方は女生徒諸君に於て最も不意氣です。或はわれ〳〵の目のあやまりで女生徒諸君と見違へたか知りませんが、しかしかういふ打扮の令孃を見た事がありました。
この頃年は十七八、可なりな家と見えて絹物を着て居ました。羽織りは濱淺黄、帶は藍氣の繻子の竹の斑入り。でその肩掛けは毛糸織りの厚手な鳶色でした。
こゝに色の合ふ合はぬを論せぬとしても、厚手の毛糸の肩掛けをかけられるとは何うした事でしやう。猪首、猫脊は是非とも之がため起るもの。一目見たところ、年の若い老婆が歩くと同じやうな体です。
元々肩かけは半ば實用品であるものゝ、半ばは又粧飾品です。襟が寒いとて肩掛けで蔽めては姿の美といふ事は一溜まりも無く逃げて仕舞ひます。埃を掩ふから上の方へ高くとまらせて置いて何の益に立ちましやう。
襟が寒い事なら絹の薄ハンケチで下襟巻きを爲ればいゝこと、それがために肩掛けは用ゐるに及ばぬ事です。

が、肩掛けも一種の品、用ゐ方によつても天晴れ美を添へる物です。決して擯斥し盡くすべき物では有りません。では何うしたらいゝ事か、委細は次號に委しく出します。新年も近い事、御一讀下さい。

序跋題辭の盛衰

序跋題辭にも盛衰は有りました。四五年前までは序跋題辭が一般の流行で、出る書物ごと貴顯や名家の筆をからぬ物は無い程の有りさまでした。是は書物の本文をかざるためで素より著者の不見識を示そより外の事では有りませんでしたが、そのやうな藩閥流義は終に世の風潮に押したふされ今日に至ッては殆ど全く後を絶つやうになりました。殊に文學世界に於てこの名家の名で威す硯田の案山子は全く絶えた程、この間吉岡書籍店から出版した女人禁制さむすこは紅葉山人の序、またいろは家から發兌した琉球浄るりに圓州及び美妙齋主人の序が有つたぐらゐが殆ど珍らしい程でした。今後ともこの類の無益な粧飾は行はれさせたくない物です。自序で澤山です。事に因つては無くとも差し支へは無い位の物です。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子用文章獨學び(第三) 卅三號つゞき

今度は冒頭の次ぎの主意の話しです。　主意は別段是といふ一定の形も有りませんが、兎に角最初にも述べたとほり、是が手紙の中の最も肝要な部分ですから其意味の曖昧をば務めて避け、忘れても漠然とした言ひ方を爲ぬに限ります。

　まづそのためには其主意の中の、また最も重な點を心に認めるのが第一です。　たとへば爰に絹布を注文するに方ッては即ち絹布を買ひたいとの意味を先方に知らせるのが第一の主眼で、それに伴ふ絹布の代價及び注文の時日などは其第二に位する物です。　第二に位すると言ッて決して肝要で無い物では有りません。元より言はなくては爲らぬ事ですが、しかし言ふ處の量に於ては絹布を買ひたいといふ意味の次ぎには爲る事です。

　で、委しく、そして明らかに思ふ事を言ひ盡くすには順序を立てゝ書くに限ります。　是は手紙の文に限らず、文一切は是非とも此注意を怠ると必らず害の起るものです。　順序を立てるといふ事、一寸やさしい事のやうですが、其熟練を得るには中々手の入る事です。　どうして之に熟したらよからうかと言ふに、是非とも思ふ事を左のやうな個條書きにして置いて、それで十分と考へた處でそれを一つに揃へるに限ります。

　絹布を注文する例を出しましやう。　その場合ひには左の個條に分けて見るべき事です。

(一)主意……絹布を買ふ。
(二)數量……二十反。
(三)價格……一反何程。
(四)時期……何日迄。

之を合はせると左の文が出來ます。

文例……「拜啓(冒頭)絹布買ひ入れたく候ふ。　反數は二十反(數量)一反各何程に候ふや。　至急來る何日まで御屆くだされ度候ふ」。

　まだ此文には結末が付いて居ませんが、體裁はまづ是です。前の順序の立て方は主意により色々かはるもの故、一定の形は出來ませんが、よく順序をあらかじめ立てゝ見て、其後それを一つに合はせるといふ事は御分かりになりましたらう。此が熟練を積むにしたがひ、一々順序と書いて立てゝ見ずとも、筆を立てた處でおのづから立つ物です。

　さて爰に一寸述べる注意が有ります。　われ／＼が前に載せた文例は全く虚飾の無い方の類で、大に從來のとちがひま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

す。　なるたけ虚飾を捨てたとして之を從來の文で書けばまづ大抵この類です。――「拜啓陳者絹布少々入用に付き、二十反ほど來る何日までに御屆下され度願上候ふ。　但し一反の價は何程に候ふや、御通知願ひ上げ候ふ」ぐらゐにれ書きさうです。

すべて手紙を受け取ッたものは手紙の中の問ひにれ一々こたへる義務を持つもの。問はれて答へぬのは先方へ對して禮を欠くといふ物です。　疎漏な風習が有ッたため問れれても答へずに漏らす、それがため是非御返事などゝ書き添へなくてれ爲らぬ、この弊風は速に去りたいものです。

普通語「ある」の意味

「ある」、「ゐる」、「をる」、いづれも同じやうな意味で、しかし其性質は互に違ふ、これを言語學上「異語同義」と言ひます。　是等は各特別の意味も有る事。決して濫用は出來ません。　即ち、「ある」は生活の無い物に用ゐ、「をる」と「ゐる」とは生活の有る物に用ゐるのです。　例を擧げれば山が有るとは言へますが、山が居るとは決して言へず。また虎が有るとは言へず、虎がゐるとは言へます。　勿論例

外の場合ひもあります。　即ち非動物を動物に見立てる時には「ゐる」を用ゐ、また空漠に動物を形容する時に「ある」を用ゐます。　例を擧げれば雲と動物と見立てて「雲ゐる」と言ッたり、また廣く言ッて「日本に虎は無い」と言ッたりするやうな類です。

「をる」は「ゐる」と同じ物です。　其相違は唯言葉を丁寧にする時「ゐる」の代りに用ゐるのです。　例を擧げれば「見て居ります」は「見て居ます」より鄭重に用ゐる語法です。　それ故に此言葉れ上流に對して用ゐる物です

米澤の鷹山侯女中への示し書き。

米澤の鷹山侯も、此示し書きによつて見れば、一代の賢君でした。　奥方おきよの方が亡くなられ、まだ緑子の増姫が殘りました。　それ故やがて増姫を三の丸へ引き取り、さて之に御付きの女中へ左の示し書きを出して心得させました。　其主とする處れ中和の美德を幼子につける點にあッて、武辨の心にこの春風駘蕩の味ひが有らうとは殆んど思はれぬ程です。　道理の推論は今から見て可笑しい處も有ります、が何にしろ珍らしい卓說です。…………………………いらつめ記者

今それ若葉のもえ出づるは自然と春陽のはがらかなる氣土中に滿ちて發生し、時に感じて若葉を出だし、それより東風のそよ吹くに動かされ、春雨のしと降るに潤され、のどけき日影にてらされて、目には見えねど日にまし、月に添ひて生ひたつぞかし。　其時に程よく人の力もて養ひたつれば見事おのれ〳〵が禀け得し天性と成就し、花咲き、實るぞかし。もしそれ生ふるはじめに荒き風に吹き靡かされ、つよき雨にうたれ、烈しき日影にてらされ、きびしき霜にあひ、又人の手入れ、養ひもその程を過ぐせば其天然の生氣折けやすく、終に其形もゆるみ曲りて、生ひ立ちし後も見よからず、うるはしき花も咲き出でぬ物ぞかし。　人も亦天地の間の一物なれば此天地の氣に感じて成長し、人となる事は同じ道理ぞかし。　但物は天地の偏なる氣を禀け、人は正氣を禀け得たる物なれば、成長の後智慧分別も諸物とは格別にして、天地も並びて三才とも稱し、萬物の靈とも云ふぞかし。　されば生此人の力を借り得ねば化育の功も屆かぬ處ある故に、天地にまれ付きし其はじめはむく〳〵したる許りにて、乳をのむことの外は弁へたる事もあらされども、父母のいとをしみ、生育に養はれて成長し、人ともなるものぞかし。　されば其父母の養育が即ち雨露のめぐみぞかし。　其雨露のやしなひ、手入れの仕方よければ見事にすく〳〵と生ひたち、其雨露の養ひ、手入れ惡しければ見ぐるしくかじけて生たつぞかし。雨露のやしなひ、手入れの仕方と云ふは即ち東風をそよ吹かせ、春雨をしと降らせ、日影を長閑に照らさせ、養ひ時に先き立たず、後れず、程よくする事なり。　其東風をそよ吹かせ、春雨をしとふらせ、日影を長閑に照らさせんとは如何にする事ぞと謂ふに、皆これ今日の上の事々物々にありて、其子を取り扱ふに、物靜にしてまづ我をいさぎよくし、柔和を專らとし、心の内に一物とたくはへず、有りの儘にして立ち居振る舞ひしとやかなるが、則其子に當る東風、其子をうるはす春雨、其子をてらす日影なるなり。　それよりして飲食衣服、朝夕の調度まで皆其宜しきに從ひて過不及なく、其時時に從ふべきなり。　風をいとひて風よけが厚ければ蒸れて枯るゝのうれへあり。　雨を凌ぎて雨よけ多ければ乾きいたみ、日を避けて日よけ大なれば色艶の無きが如し。　たゞ其風も雨も日影ほどよく受けしめて其時々の手心を入るべき事ぞかし。

（以下次號）

小倉の式紙及び其奇談

定家卿の小倉山荘の式紙は百人一首を式紙に一首づゝ書いて障子に張ッた物で、後の人が之を五十枚づゝ屏風二枚に張ッた處、一枚は燒けて仕舞ひました。殘る五十枚は諸家に散りましたが、それさへ次第に無くなッて今日たしかに有るのは其半數ぐらゐな物です。此式紙昔は一枚に付き價黃金であッたとの事です。今は猶更の價です。一つは名家の手跡と言ひながら、茶道の人が愛翫するため價も高いのですその起りを尋ねるに、むかし堺の商家に「八重むぐら」の式紙を持ッて居たのが有りました。其家に茶會が有ッた處、招かれたのは有名な茶道紹鷗（天正頃の人）でした。紹鷗が其家に至り、中へ入りながら同伴の人に曰ふには、此主人は小倉の式紙の「やへむぐら」を取藏して居るとの事、かならず本日床に掛けて置く事であらうとの趣きで、それから同伴の人も半信半疑で中へ入ッて見ると、如何にも違ひませんでした。不思議な的中ゆゑ、どうして知ッたかと人々が紹鷗にたづねると、對へていふには、主人も風流の人といふのに、會をしながら庭の落葉をも掃はずにあッたのは何か心の有る譯。即ち「八重葎」の秋意の歌と面白く取り合はせた物であらうと考へ、それで中てたのだと述べました。いづれも感じ入ッて此事終に世間へ流布し、やがてそれから小倉式紙の名ますます高く、はては今日のやうな勢ひに立ち至りました。その元を云へばこの紹鷗と主人との奇才が半ばそれを成したのです。

歳暮新年及びくりすます用贈り物見立て

えらみ立てれば迷ふもの丶多少また珍らしい是からの贈り物も有ります。改まッて向きへ贈る菓子切れ地類は云ふ迄の事でも有りませんが、其餘に至れば新舶載の寫眞かけ（金屬または象牙製一つ一二圓以上四五圓迄）英國製各色玉玻璃の花瓶又は含嗽具（成美社で購求紹介をします）、博聞社の木板畫帖（舊い物ながら上品です）、大巾絹の卓子掛けなどが最上の處。下ッた趣向や見立てを主とした方になれば、天女と題して鳩の畫を贈るのもよく、沈魚と題して落厂（菓子の）を贈るのもよく、傾國と題して化粧品をおくるのも宜くすべて此類で贈答するのも亦面白い事です。

諸色取り合はせ方（三十四號つゞき）

其五　眞紅と鼠

この取り合はせは最も六かしい物。唯眞紅と鼠とを取り合はせればい丶と聞けば何とも思はれませんが、それ迄にしつかり目でひとりで見定めるには中々困難な事です。

眞紅といふのは紅の最も濃いのを指す言葉で、鼠は灰色とも云ふ色です。眞紅の方は單純な色、即ち紅がたゞ濃くなつたといふだけの物です。が、鼠の方は之に反し、最も複雜した色です。普通の鼠色は黒が極少い分量で白と合した物ですが、之に靑をすこし入れても、紅をすこし入れても。また黄をすこし入れてもやはり鼠は——わづかに色合ひをかへるにしろ——鼠として殘ります。それ故に鼠は色の中では最も複雜した方。で、何と取り合はせても殆ど合ひますが、しかし極言すれば目に輕く來る色によく合ひません。鼠を黄に取り合はせて見ればわかります。

その中で最もよく合ふのは眞紅とです。眞紅と鼠を合はせると、目の迷ひで眞紅の光りが鼠にかゝるやうに見えて、甚だ趣きは有ります。眞紅が多く、鼠がすくない場合ひには品はや丶眞紅が少く、鼠が多いのより劣ちます。が、半襟長襦袢、袖口、いづれにも両ながら適當します。乙女の物にすれば、着物にも適當します。あつまり用ゐたら三十近い婦人にも可なり合ひます。

（以下次號）

切れ地についたインキを落とす法

どうしても手早く牛乳で洗ふのに限ります。牛乳と少し茶碗へとり、インキのついた處を之にひたしてよく揉み落とすのです。が、西洋インキに限ります。

身体のナマズを取る法

ナマズには赤ナマズ、黒ナマズの二つあります。が、どちらでも此法でかならず取れます。俗にすッぱ草と云ッて道傍に生へる草の根をとり、よく洗ひ、酢に浸し、二三日たッて後その汁をナマズの出來た上へぬれば一週間と立たぬ中に治つてしまひます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

名刺の用ゐ方について　槐月陰史

名刺の用ゐ方にいらつめ三十二號にも出てゐましたが、歐米の婦人方の用ゐ方は出てをりません。さる故少し許り思ひついた事を書くこと、しました。
總て正しき禮儀の際には名刺が入用なものです。婦人は自己の名刺一枚と良人の名刺二枚と出すのが通例です。歐米の良人の名刺一枚を主人に送り一枚を夫人に送る爲めです。又た其家に寓する客を訪ねる時は歸る時に一枚の名刺を留むるものです。婦人が良人の代りに名刺を出す時は客間には置かず、應接所の卓の上に置くのが宜しいです。もし人と訪ねて不在の時は名刺の隅を一箇所折りて家族に渡します。これは自身で存問ねて來た徴しとするのです。昔の名刺は、大きい事、厚い事、滑らかな事、多く粧飾と附ける事、以上の四ヶ條を具へたるのを貴びましたが、當今では簡略でそして飾のこいのが流行します。婦人は男子より小形の名刺を用ゐます。しかし縁組した人は一枚の名刺に夫婦兩名を併べ記することがあります。婚姻前の女子は母の姓名の下に自己の姓名を書き、男子は只だ姓名のみ記します。婚禮の時に用ゐる名刺は通常の名刺と書法は同じです。が、溥い縮子にて作り廣い銀絲を附け銀絲で結んで、そして相應な封袋に入れ封蠟で糊封よするのが習慣となつて居ます。

日本白粉化粧後の注意　西尾さてん

白粉をつけて便所に長く居るものでは有りません。その故は、凡べて白粉といふ物は化學上炭酸鉛といふ物で、便所の中には多くは硫化水素といふ瓦斯が立つため、この硫化水素と炭酸鉛と化合して黒い色の硫化鉛を生じ、櫻色のやうにうるはしい顔を忽ち眞黒に染め做し、折角の化粧も無になる物です。
御婦人方は宜しく御注意あるべき事です。

花及び色の投票第二號（この委細は前號にあります）

花
一 菊
二 梅
三 櫻
四 水仙
五 蓮

色
一 緑
二 紫
三 赤褐色
四 とき色
五 淺黄

以上投票者　東京本郷　大川まさ子

通信問答

心得第一　通信問答は無手數の事○第二　御何ひ合せの事が答へを載せる雜誌の八號前にあればそれには委しく答へず、只其處仕を言ひます○第三　特に普通に有益と認めた問ひには廣く答案を募ります○第四　御問ひ合せの文字並びに文章は明亮に書くべき事

西村きか女さまへ　第卅二號名梟の足ハ普通の鳥と同じく前に三指、後に一指有りますが、實あれが眞です。　妖鳥ハ前二指後二指といふ說ハ昔の臆見です。前に二指後に二指有るので啄木鳥族ばかり、其餘は皆前三後一です。　梟は鷙鳥類の鳥です。　鷙鳥類ハ必らず前三後一の指を持ちます。

操竹女史へ　咽喉カタルハ感冒から來る者ですから感冒を防ぐのが第一です。冒を防ぐ法御存じなければ重ねて御答へ申ましやう。　いかゞ？

薔花女史へ　（一）愛恵國とハブレスドといふ洋語から來た字で、即ち天祐を享けた國といふ義です。　（二）倶樂部は英語 club から來た言葉、これハ英音に漢語を巧みにハめたのです。　原語の意も集會といふ事です。　（三）大便排泄に肛門の疼いのも痔のためです。　（四）脚氣に郊外運動は最も宜しいです。

あさの樣へ　最良朱肉の製法は委しく次號に出します。

梅原かをる樣へ　千蔭筆の百人一首ハ東京でハ須原屋のやうな和書專賣の家に大抵あります。

みやこさまへ　ニキビハハンドコロンを塗るに限ります。　必らず早く治ります。　常に用ゐれば預防が出來ます。

小糸さまへ　手の肉を柔にするには湯一升硼砂三匁ばかり交せ合ハせたので毎日手を洗ふに限ります。　早く色を白くさせ、かつ滑らかにします。

旭屋さまへ　梅の雪の製法はいらつめに載せてありません。　レモン水を原料としろさいふだけが載せてあるのです、（二）硼砂を混合した口中含嗽水は素人にも目分量でこしらへて出來ます。

大西さまへ　ハナダ色とハ空色の事です。　まるく度を强くさいしなければ宜しいです。

花子さまへ　アクノ水へ一日間も漬けて置けば干し鰯ハ全く生のやうに柔になります。　老人でも食べられます。

坂田つゆ子さまへ　霊丹ハ新年よりは歳暮の進物の方が宜しいです。　トランプの進物は餘り珍らしくも有りません。

疑問（一）太陰曆の明治二年五月廿五日は太陽曆の幾日に相當しますか　（二）太陰曆を太陽曆に直す法…以上北陸山前○第卅三號疑問　鹿皮の手袋を曾達で洗ッて硬くなッたのを柔にする法…石川信子確答の方にハいらつめ一部進上●貴答、最初二題ハ本月廿日第三ハ十五日限り〆切。

答書

第卅一號疑問及び答書

しつかりした手跡の女子用文章習字手本は何でしやうか……右……紫影庵昔娘

答　私の是まで見ましたのでは鈴木弘恭大人の著、多田親愛君の書で女子日用文例と題する二冊の本がまづ一寸難の無いものです。もつとも高尚の作例は擧げて有りません。……右……高　は　し（ナゴヤ）

第三十二號疑問及び答書

屠牛肉と死牛肉との鑑別法……増野房人

答　牛肉一切れを紙に包んでしぼるのです。死牛の肉でしたなら紙に血がにじみます。屠牛の肉でしたなら血は決して出ません。是は私しが實際試みましたから間ちがひ有りません。……右……神崎えい（ハコ）

外に撫箏女史からも御答へでしたが、大同小異でした。

牛肉馬肉鑑別法……増野房人

答　牛肉は薄色ですが、馬肉は濃く、そして暗赤色です牛肉は脂肪多く、白色ですが、馬肉は脂肪少く、ろして黄色を含んで居ます。　馬肉は牛肉に比較して、筋の纖維がこまかく、そして其切斷面は牛肉は四角で、馬肉は三角形です。肉を煮れば臭氣ででも知れます……撫箏女史（ミノ）

廣告

注意　いらつめ第廿四號に處方と出したハンドコロン、及び第廿八號に製法を載せたポマドンヌール共近頃麁惡な剤料を以て僞造品を賣る者が有ります。翁屋へ托して弊社で發賣させる上は一々剤料を吟味しますが、麁惡な剤料で名を冒して發賣されるに於ては其効驗の無いのは勿論の事、啻に弊社の迷惑のみか又御求めの各位の御損です。東京では直接に翁屋から御求めになる便も有りますが、地方ではそれも叶はず、陰ながら弊社も御迷惑御察し申します。因ツて今度から手數ながら弊社で地方の各位に右兩化粧品賣買の御紹介を致します。御用の御方は弊社又は翁屋へ向けて直接に御申込下さい。其場合に於ては弊社で包の紙に保證の捺印をして差し立てます。御申し込は定價を添へるに限ります（郵券代用御斷）。定價ハンドコロン一瓶七十五錢、ポマドンヌール廿五錢、遞送料其他御注文の心得はいらつめ第廿九號の廣告にわります

成美社發送掛

いらつめ**合本**　十一十二兩月分

豫告の通り合本が出來ましたから來十二月一日から發賣します◎其体裁は一本を等の如何ほど**優美秀麗**か御求の上御品評を願ひます◎紙數百廿六ページ◎定價十五錢五厘府外郵税二錢◎廿八號から卅三號まで殘らず合本

成美社

いらつめ**廢本非常廉價賣捌**の處瞬く間に**品切**となりましたゆゑ**更に普通本を**廢本と同樣の**廉價**で賣ります但**非**常の廉價ゆゑ**割引を爲ません**一冊三錢郵税各五厘◎十二號廿四號皆無◎前金領收の上發送

成美社

米國新製**絨氈羅氈塵去り器械**

○堅牢無比、便利一等、切地を損せずに秋毫の垢埃をも去る器械○貴紳の住宅に最も必要の品○一個四圓五十錢

專賣　神田區通鍋町十番地　**高木商店**

新年歳暮及びくりすます用

流行新形
名刺狀袋繪紙等
最上等石版印刷

本紙雜纂内に出した事を今度から成美社で御注文に應じます（雜纂欄參看）

一　圖案の工夫望みの人は畫案の趣意を詳細に認め圖案料三十錢を（郵券代用は五厘切手一割増）送るべき事（名刺は例外）

二　既に圖案を定めて畫圖と印刷とをのみ托される人は圖案料送付に及ばぬ事

三　畫圖は成美社で清親月耕良信三氏に書かしめ決して他の畫を受けぬ事

四　圖案を付けても印刷濟の上で無くては注文者の御覽に入れるのを堅く謝絶する事

五　成美社で作らせる圖は中等密畫（疎畫でも價は同樣）の事。

（一）**名刺**

	百枚	二百枚
一度ずり	三十錢	四十五錢
二度ずり	卅五錢	五十五錢
三度ずり	四十錢	六十五錢

（もし書を加へる事ならば別に書料十錢及び圖案料十五錢を加へる事。

（二）端書板の畵紙及狀袋

	百枚	二百枚
一度ずり	一圓五十錢	二圓七十錢
二度ずり	一圓六十五錢	三圓
三度ずり	一圓八十錢	三圓三十錢

（もし圖案御注文ならば別に圖案料卅錢を加へ、又、書を入れなければ一組に付き五十錢引く事。

（三）端書の二倍大畵紙

	百枚	二百枚
一度ずり	二圓五十錢	四圓五十錢
二度ずり	三圓	五圓五十錢
三度ずり	三圓五十錢	六圓五十錢

（もし圖案御注文ならば別に圖案料卅錢を加へ、又書を入れなければ一組に付き五十錢引く事。

○右用紙は最良洋紙で前記定價の外別に紙代請求せずそれで石版は優美精巧を究めた物、廉價は言ふ迄でも有りません

● 四度ずり以上、二百枚以上、及び前記紙幅以外は御注文の別に御相談の上定價を定めます
● 刷る御筆蹟は雁皮に記して御送りおるべき事
● 御注文の際は清親月耕良信三氏の内御望みの書工を御指名の事
● 御注文を受取つて後、一度ずり物は四日間、二度ずり物は六日間、三度ずり物は一週間にこしらへ上げる事
● 御注文は必ず前金の事、郵券代用ならば五厘切手で一割増の事
● 御注文品出來の上は成美社から御届申す事
● 御注文枚數は必らず百枚及び二百枚の中に限る事
● 字の揮毫をも御托しになる事ならば無手數料で爲ます
● 遞送料（一）は百枚以上四錢以下二錢（二）は百枚以上四錢以下二錢（三）は百枚以上六錢以下四錢

東京神田區平永町

成美社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

樂器着荷廣告

弊店儀かねて歐米へ注文致し置き候ふヴァイオリン、オルガン、ピアノ並びに音樂書籍など各種着荷いたし候ふ間御一覽の上御購求被下度伏して是祈る

○イタリー製ヴァイオリン箱入り
右イタリー品ハ從來あまりこれなし獨逸製とは品位一等の差に非ず今弊店に於て之を專賣す
九圓、十二圓、十六圓、廿五圓、卅圓、四十圓其他

○和製ヴァイオリン
右は弊店製造品にて和製品中唯一との評あり
四圓、四圓五十錢、六圓、七圓其他

○靜岡縣濱松樂音舍製オルガン
右は近頃諸機械を設置し凡て歐米製と殊なる無き品を製するに至れり
十八圓、二十四圓、卅三圓、三十七圓、四十五圓、六十圓、五十二圓、七十圓、九十圓、百二十圓其他

○舶來ピアノ
百五十圓より五百圓まで各種

○舶來オルガン
三十八圓より二百五十圓まで各種

○舶來ヴァイオリン附屬品、糸、ヤン、調子笛各種

○樂譜用紙

○オルガン譜用、ピアノ譜用、ヴァイオリン譜用椅子

●諸樂器類深切に御直し致し申し候
調子の義は外人に致させ申すべく候
破損の節は御報知次第參上委しく申し上ぐべく候

神田區通鍋町十番地　**高木樂器商店**

教訓歌留多雙六廣告

●そろばんかるた

正價 上製金拾八錢 / 並製金拾參錢
●郵送費金四錢●郵券代用不苦

此の歌留多ハ記臆力を養成せんがため兒童が遊戲中に不知九々のかぞへ方容易なる加減乘除を學び得る樣極めて面白く工夫せし者なれば唯に遊戲に使用するのみならず學校に於て練習用に供し尤も有益なるものなり

●萬國週遊雙六

正價金拾錢
郵送費金貳錢
郵券代用不苦

此の双六ハ世界各國の都府、港灣。名所、旗章、海陸の里程航海路、等を詳記せし世界週遊萬國旅行の指南圖にして兒童が愉快の遊戲の間に萬國地理の概況を了解し得れば家庭の敎器又は小學校の參考等に適切なる地理圖なり

日本橋區馬喰町　**興文社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY